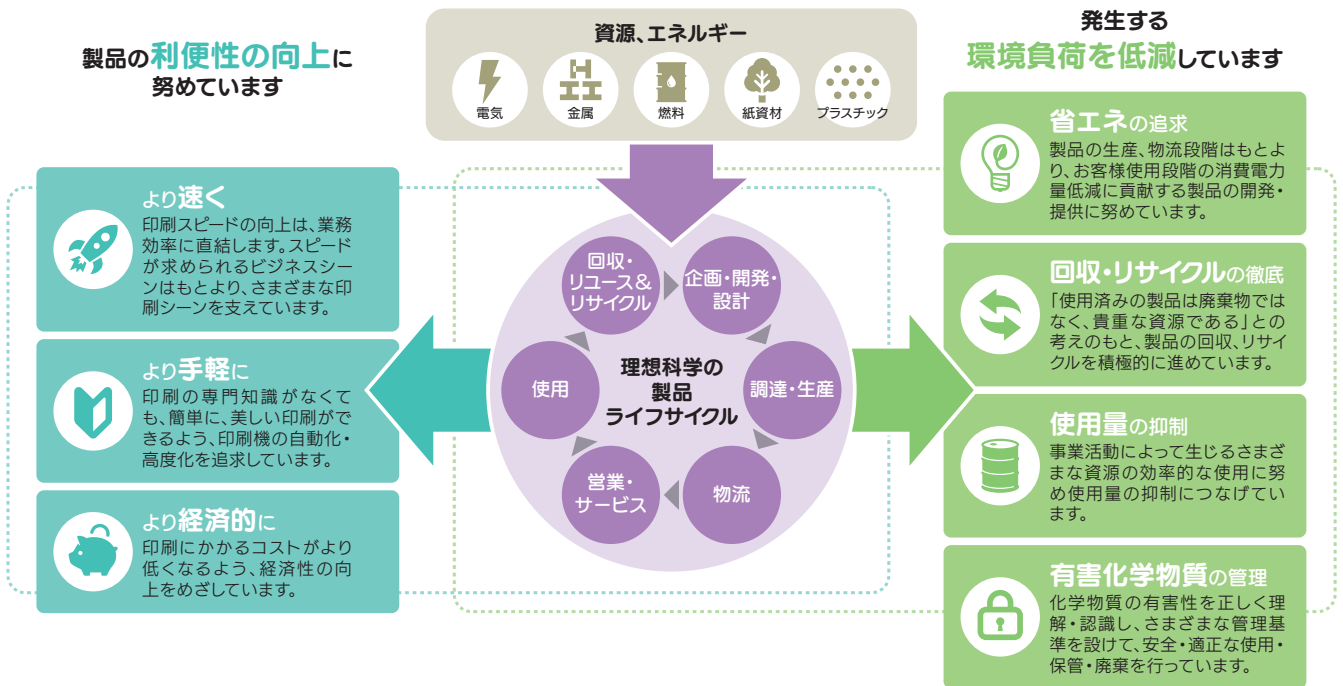


環境への取り組み姿勢

製品の「利便性向上」と「環境負荷低減」の両立を追求しています。



理想科学の環境方針

環境への取り組み姿勢を明確に示した「理想環境憲章」ならびに「環境行動指針」を制定し、理想科学は、全社を挙げて環境保全活動を推進しています。

環境憲章

理想科学工業株式会社は、優れた製品の開発を通して社会に貢献することを基本理念とし、加えて地球社会の一員であることを深く認識し、美しい健全な環境を次世代に引き継ぐために地球的規模での環境保全に貢献するように努めます。

環境行動指針

1. 環境に配慮した製品の開発

製品の開発・設計の段階から生産、流通、使用、リサイクル、廃棄などの各段階を考慮し、トータルでの環境負荷を低減するよう方針を策定し、実行する。

2. 省資源、省エネルギー

事業活動によって生じる環境への影響を調査、検討し、環境負荷を低減するよう、省資源、省エネルギーに努める。

3. 地域の環境保全

国、地方自治体などの環境規制等を遵守することにとどまらず、事故等の緊急事態に備えて汚染の可能性を検討し、

予防する。

4. グローバルな視野での対応

海外事業活動および製品輸出に際しては、現地の環境に与える影響に配慮し、現地社会の要請に応えられるよう努める。

5. 継続的な改善

環境管理の組織、制度を整備し、環境目的・環境目標を設定して、継続的な改善活動を実施する。

6. 環境教育と情報公開

環境について全従業員が見識を深めることができるよう、当環境憲章および行動指針を基に適切な教育や広報活動をおこなうと同時に、環境活動状況を積極的に一般公開し、社会との連携により一層の環境負荷の低減に努める。

平成10年8月28日制定

平成19年4月1日改定

代表取締役社長 羽山 明



2020年度 全社環境取り組みの数値目標※の進捗

企業の成長と温暖化対策の両立をめざす産業界を挙げての取り組みである「電機・電子業界 低炭素社会実行計画」を踏まえ、2020年度「全社環境取り組みの数値目標」の達成に向けて単年度ごとに数値目標を設定し、環境負荷低減活動の進捗を管理しています。

※2016年度まで使用していた「全社環境目的・目標」は、省エネ法を遵守することと低炭素社会実行計画を達成するための数値目標であり、2017年度からは「全社環境取り組みの数値目標」と名称変更します。

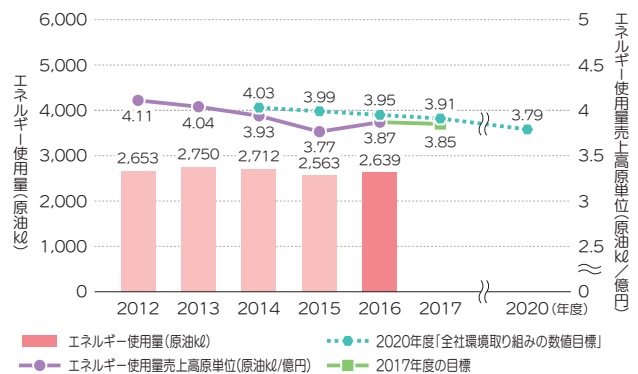
◆ エネルギー使用量(原油換算)の削減

国内全体で

>> 2020年度においてエネルギー使用量単体売上高原単位を
3.79原油kℓ/億円以下にする

(2014年度から2020年度までのエネルギー原単位改善率を年平均1%と定める。
達成の判断は、基準年度(2012年度)比で2020年度に7.73%以上改善する)

全社(国内)エネルギー使用量および売上高原単位の推移



集計範囲: 理想科学単体国内全事業所のエネルギー使用量(委託物流量、社有車燃料使用量は除く)。売上高は単体売上高

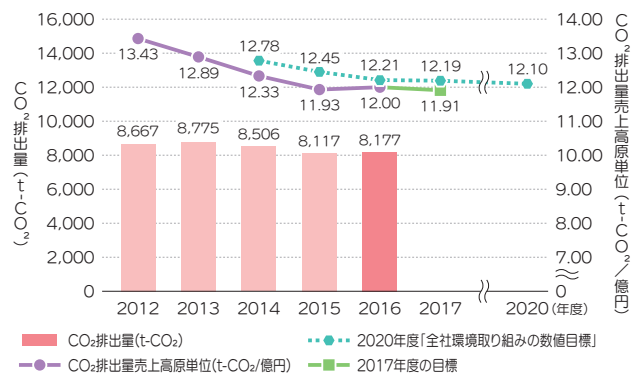
◆ CO₂排出量の削減

国内全体で

>> 2020年度においてCO₂排出量単体売上高原単位を
12.10t-CO₂/億円以下にする

(エネルギー使用量単体売上高原単位の3.79原油kℓ/億円をCO₂排出量単体売上高原単位に換算した数値に、物流と社有車のCO₂排出量を含めた値)

全社(国内)CO₂排出量および売上高原単位の推移



集計範囲: 国内全事業所のエネルギー使用量、社有車の燃料使用量、物流部所管の製品・サービスの物流委託量とそれに伴うCO₂排出量。売上高は単体売上高

2016年度実績

(詳細はデータブックを参照:図表1)



高効率タイプのボイラーへ更新

2016年度も省電力に重点をおいた取り組みを継続しました。空調機や照明をエネルギー効率の高い設備へ更新するなど積極的な投資を行い効果をあげました。2016年度のエネルギー使用量単体売上高原単位の実績3.87原油kℓ/億円は新製品の立ち上げ等でエネルギー使用量が増加したため未達成でした。しかし、2020年度「全社環境取り組みの数値目標」の達成に向けての数値目標は達成しました。2015年度と比較するとエネルギー使用量単体売上高原単位で3%、CO₂排出量単体売上高原単位で1%増加しました。今後は適宜PDCAを繰り返し、上方修正できるよう環境負荷の低減に向けて活動していきます。